

# 多様化する地域実践型の大学教育が地域にもたらす効用に関する研究

## —横浜国立大学地域課題実習を対象に—

1563244 木村 夏輝

指導教員 高見沢実教授 野原卓准教授

### 1. 背景と目的

近年、全国の多くの大学で地域との連携活動が行われている。その中に大学教育として行われる連携活動があり、近年増加している。教育プログラムの一環となる地域連携は、原則として実践的な学習を通じた学生の成長に重点を置くが、実際に人が住み生活している地域をフィールドとして活動を行うため地域の理解や協力を必要とする。そのため大学は教育のフィールドとする地域への効用を考える必要があると言える。しかし連携内容は多様化しており地域への効用を述べることは容易ではない。以上のことから、本研究は地域・教員・学生の3主体が関わり多様化する地域実践型の大学教育が地域にもたらす効用を明らかにし、地域への効用と担当教員・学生への効用との関係性について考察を行い、地域実践型の大学教育の現状と可能性を明らかにすることを目的とする。

### 2. 研究の対象と研究方法

本研究では多様な地域実践型プロジェクトを展開する横浜国立大学の地域課題実習を研究対象とする。地域課題実習は、学生が実際の地域で、地域の課題に取り組む活動を通して実践的能力を身につけることを目的とした教育プログラムである。学内の全学生が履修可能な授業として設定され、毎年度多様なテーマで20プロジェクト程度が進行されている。

研究方法は、まず報告書より地域課題実習の概要を把握し、調査対象とするプロジェクトを選定する。次に主要連携先にヒアリング調査を行い地域への効用を把握する。また各担当教員・学生への効用についても、各々にヒアリング調査を行う。調査結果から地域への効用を明らかにし、担当教員・学生への効用との比較を通して地域課題実習の現状を把握し、今後の可能性を考察することで目的を達成する。

また本研究では、効用を把握するために期待（事前に活動に対し望んでいること）とメリット（活動

の結果として実際に得た利益)の2点に着目し、研究を行う。

### 3. 調査対象プロジェクト

2018年度に行われた18プロジェクトを活動テーマで分類し、各テーマから1~2プロジェクトを対象プロジェクトとすることで、多様なテーマの活動を選定した。その際、2018年度に開始したばかりのプロジェクト、連携先へのヒアリングが困難なプロジェクトは対象外とした。1プロジェクトのみの国際交流をテーマとした活動については本研究では対象外とする。

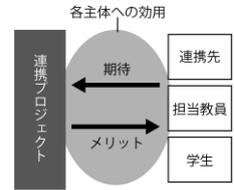


図1 連携活動の効用

表1 プロジェクトのテーマ分類

テーマ分類	活動テーマ	プロジェクト名	対象外理由
自然環境	神奈川県里山保全	かながわ里山探検隊	
	横浜周辺の自然環境	都市の自然を楽しむライフスタイル	・明確な連携先がない。
地域産業	神奈川県地域の資源の活用	ローカルなマテリアルのデザイン	
	和町商店街の活性化、弁当販売	和町ベトナムプロジェクト	
地域経済	農業によるビジネス	アグリッッププロジェクト	
	農作物による商品開発	アグリッップ商品開発プロジェクト	・初年度なので除外
	神奈川県西部の観光のあり方	神奈川ニューツーリズム	
	横浜市周辺の地域経済の調査・分析	データで捉える地域課題・地域経済	
まちづくり	南方駒が原駅周辺のまちづくり	NEW-NEWTOWNプロジェクト	
	横浜の海とまちの関係性を考える	うみみらいプロジェクト	・初年度なので除外
	大田区の産業と結びついたまちづくり	おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト	
	横浜市のNPOのまちづくり活動	市民活動を体験して考える協働型まちづくりPJ	
	静岡県清水市の地域ブランディング	みなとまちプロジェクト	
	全国の都市のモビリティ課題	モビリティ・デザインの実践	・明確な連携先がない。
空間活用	屋台を架橋としたまちづくり	屋台まちづくりプロジェクト	
	上里川駅周辺の地域交流空間の活用	上里川プロジェクト	・初年度なので除外
国際協力	地域交流拠点としてのCASACOの活用	まちに開いた交流の場のデザイン	
	Wit WADAを拠点としたイベント	ワダコプロジェクト	
国際協力	ネパールでの国際協力	ネパール支援プロジェクト	・遠隔地により調査困難

※太字は調査対象としたプロジェクト

### 4. ヒアリング調査

対象プロジェクトの主要連携先(8対象10人)、担当教員(5人)、学生リーダー(7人)を対象に活動への目的や期待、実際のメリットについてヒアリング調査を行った。

表2 対象プロジェクトの詳細

プロジェクト名	テーマ	主要連携先	開始年度	学生数(2018)
かながわ里山探検隊	神奈川県里山保全	七沢里山づくりの会(里山保全団体/地域住民)	2015	16
ローカルなマテリアルのデザイン	神奈川県地域の資源の活用	杉山さん(林業家)	2015	6
アグリッッププロジェクト	農業によるビジネス	藤巻さん(農家)	2017	15
NEW-NEWTOWNプロジェクト	南方駒が原駅周辺のまちづくり	相鉄(相鉄ビルマネジメント・相鉄ホールディングス/企業)	2016	22
おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト	大田区の産業と結びついたまちづくり	大田観光協会、工和会協同組合(工業団体)	2014	11
まちに開いた交流の場のデザイン	地域交流拠点としてのCASACOの活用	CASACO運営メンバー(NPO/建築家/地域住民)	2017	19
ワダコプロジェクト	Wit WADAを拠点とした和町でのイベント	和町町西部町内会	2009	23

	○	□	⊙
地域（連携先）が挙げた項目	学生が挙げた項目	教員が挙げた項目	教員と学生がともに挙げた項目

表3 地域への効用と教員、学生への効用の対応

		プロジェクト名・テーマ分類												
		かながわ里山探検隊	ローカルなマテリアルのデザイン	アグリッジプロジェクト	NEW-NEWTOWNプロジェクト	おたくりエティータウン研究PJ	まちに開いた交流の場のデザイン	ワダヨコプロジェクト						
		自然環境		地域産業		地域経済		まちづくり		空間活用				
		期待	メリット	期待	メリット	期待	メリット	期待	メリット	期待	メリット	期待	メリット	
地域への効用	①教員や学生との交流		⊙		□	□	□	○	○	○	⊙	○		
	②地域とのつながりの作成				⊙	○	□							
	③地域内イベントの企画・運営						○	○	○	○	⊙	⊙	⊙	
	④意見・アイデアの獲得						□		□		□	○		
	⑤地域に対する理解		⊙	○	⊙	○	⊙	○	○	○				○
	⑥研究による効果						⊙	⊙	⊙	⊙				
地域のみ効用	⑦手伝い・ボランティア													
	⑧発信			⊙	○									

## 5. 地域への効用

連携先へのヒアリング結果から地域への効用を抽出し項目化した。表3に項目と調査結果を示す。

## 6. 担当教員・学生への効用との比較分析

調査により明らかにした地域への効用に、担当教員・学生の効用を照らし合わせて分析する。（表3）

### 6.1 地域に効用をもたらすプロジェクトのタイプ

地域・担当教員・学生の3主体への調査結果をもとに対象プロジェクトを次のようにタイプ分類することにより、現状を把握する。

#### (1) 地域理解タイプ（表中左の3PJ）

項目⑤で3主体の期待が一致している。いずれも地域からの学びをもとにした活動を展開するプロジェクトである。項目①が2PJからメリットとされた。

#### (2) 研究タイアップタイプ（まちづくりの2PJ）

項目⑥で3主体の期待及びメリットが一致する。研究とタイアップしているプロジェクトであり、地域がメリットとする項目が多い。①、③は学生にもメリットがある。このことから研究タイアップタイプの連携は3主体に対して有効であると考えられる。

#### (3) イベントタイプ（空間活用の2PJ）

項目③で3主体の期待が一致する。地域でのイベントを主な活動としている。③④で地域の期待とメリットが一致し、地域に大きな効用をもたらしていると考えられる。

### 6.2 地域と大学生をつなぐこと

項目②は多くの連携先から挙げられたが、教員・学生からは少なく、アグリッジプロジェクトのみで

地域・教員・学生3主体の期待が一致している。これは当プロジェクトが、学生が多く住む大学周辺地域を対象とし、学生と地域のつながりが希薄なことが双方の課題としてあることに起因している。このことから、大学周辺地域での連携活動は地域と大学双方から求められていると言える。

### 6.3 教員・学生への効用と一致しない地域への効用

項目⑦⑧のように、地域のメリットが教員・学生の効用と一致しない部分がある。これら副次的結果として地域にメリットを与えていると考えられる。

## 7 まとめ

地域実践型の大学教育は、地域の期待によってプロジェクトタイプが変わり、地域と大学双方に効用をもたらす項目が違うことが明らかになった。このことから、プロジェクトの設定は地域の期待を理解することが重要であり、適当なプロジェクトタイプを選定し、発展させることで地域と大学双方に効用をもたらすことができると考えられる。また、大学周辺地域を対象としたプロジェクトは地域・大学双方から求められており、大学が連携を積極的に取り組むべき地域連携活動であると言える。

## 参考文献

1. 横浜国立大学「地域交流科目による学生参画型実践教育 事業報告書（H16～18年度）」
2. 横浜国立大学地域実践教育研究センター「事業報告書」（H19～21年度）
3. 横浜国立大学地域実践教育研究センター「成果報告集」（H21～23年度）
4. 横浜国立大学地域実践教育研究センター「地域課題実習・地域研究報告集」（H24～27年度）
5. 横浜国立大学地域実践教育研究センター「地域課題実習・地域研究報告集」（H28～29年度）
6. 横浜国立大学地域実践教育センター「地域交流科目シラバス2018」